

三浦半島に分布する下部更新統斜面堆積物（上総層群野島層）における海底地滑り構造

Submarine landslide structure in the lower Pleistocene slope deposits, exposed at the Miura Peninsula, central Japan.

野崎 篤^{1*}, 楠 稚枝¹, 間嶋 隆一²

NOZAKI, Atsushi^{1*}, KUSU, Chie¹, MAJIMA, Ryuichi²

¹ 横浜国立大学大学院/環境情報学府, ² 横浜国立大学/環境情報研究院

¹Graduate School of Environment and Information Sciences, Yokohama National Univ., ²Faculty of Environment and Information Science, Yokohama National University

三浦半島北部には前期更新世の斜面堆積物である上総層群中部の野島層が分布する。調査地において野島層には、海底地滑りによって形成されたと考えられる構造が、房総半島の上総層群黄和田層中の鍵層凝灰岩 Kd-39 (176 万年前) に対比される YH02 凝灰岩の約 2-65 m 下部までの範囲に観察される。本研究では、野外踏査及びボーリングコア記載、火山ガラス屈折率や鉱物組成に基づく凝灰岩の対比、古地磁気極性に基づき、野島層における地滑り層の構造を明らかにした。

調査地の野島層は、下部、中部、上部の 3 つに区分される。下部は層厚およそ 50 m で下位は泥質砂岩、上位は砂質泥岩と泥岩の互層からなる。中部は層厚およそ 20 m で主に泥質砂岩からなる。上部は層厚およそ 5-40 m で、礫質砂岩から泥質砂岩にかけて上方細粒化を示す。下部の最上位の泥岩と中部の泥質砂岩とは明瞭な境界で接している。この境界部において、一部で下部の泥岩が泥質砂岩中に幅 40 cm、高さ 3 m にわたって貫入している様子が見られる。また中部において走向傾斜は上部や下部の示す走向傾斜と大きく異なる著しく多様な値を示す。この中部と下部において、それぞれ共通する 5 枚の凝灰岩が見出されたことから、中部と下部で同じ層準が繰り返しており、中部の全層準は下部の一部と重複していることがわかった。上部は中部と浸食面で境界されており、また上部基底における礫は泥岩、泥質砂岩、砂岩からなる。

調査地の野島層中部と下部での同層準の重複は、海底地滑りによって中部が下部の上に乗りあがることで生じたものであり、中部は地滑り岩体であると考えられる。中部は下部の同層準と比較するとより粗粒な岩相を示すことから、下部よりプロシキマルな環境で堆積したものであると推定される。また上部は地滑り痕を埋めた重力流堆積物であると解釈される。凝灰岩に基づく層序から、地滑りにより滑動した岩体は層厚約 110 m 分に達すると推定される。

キーワード: 海底地滑り, 下部更新統, 上総層群, 野島層, 三浦半島, 斜面堆積物

Keywords: submarine landslide, lower Pleistocene, Kazusa Group, Nojima Formation, Miura Peninsula, slope deposits